R431物語　第６回

今回の主人公：野菜たち

（長江ふれあい市　松江市西長江町）

岩田英作

開店の朝８時、すでに長江ふれあい市の前には車が次々と止まり、とれたての野菜を求める人たちでにぎわっている。なんてったって、ぼくら長江の野菜たちは味がいいと評判なのだ。長江の土は粘土質で、そのぶん野菜作りに手間はかかるが、できた野菜の品質は抜群だ。

いちど、長江の野菜を生でかじってほしい。きっと違いをわかってもらえるはずだ。

はじまりは平成４年。余った野菜を地元のおばちゃんたちが一輪車に積んで売り始めたのがきっかけだ。しばらく無人市の時期があったが、盗難が後を絶たず、現在は有人となって、お客さんとのやりとりもおばちゃんたちの楽しみのひとつだ。「どこから来たの？」「奈良」「へえ」という具合で、松江市内や出雲市からはもちろん、中には県外から定期的に訪れるファンもいる。

四半世紀の間に、当初のメンバー14人も代替わりや引退を経て、現在は半分の７人になった。60代３人、70代１人、80代３人と、ここにも高齢化の波は確実に押し寄せている。でも、おばちゃんたちは負けていない。イノシシやシカに畑を荒らされながら、一生懸命ぼくらを育てて、毎日のように市場に届けてくれる。メンバー最高齢の89歳のおばあちゃんはこう言ってた。「ふれあい市が楽しみで、この年まで長生きできました」

基本的に一袋100円で、新鮮な野菜がたっぷり詰まっている。もうけよりも、お客さんの喜ぶ顔が見たいというのが変わらぬ姿勢だ。店頭には、野菜のほかに色とりどりの季節の花も並んでいる。もちろんおばちゃんたちの作ったものだ。建物の中に入ると、壁にメモ書きがたくさん貼ってあって、日付と名前と品名が書き込んである。なんとこの市、予約にも対応していて、「何日に野菜の○○おねがい」って言えば、おばちゃんたちはできるかぎり応えてくれる。それだけじゃない。外の行事や催しから依頼があれば、出かけて行って市を出し、野菜を売ったり、餅をついたりもする。

今年のはじめ、ふれあい市の代表を、長らく務めた加藤和江さんから幡垣とし子さんにバトンタッチした。ここまで長く続いた秘訣を、加藤さんは「団結」と言い切る。これからは、幡垣さんが団結の要となって市を支えていく。

火曜を除く毎日朝８時から12時まで。早めに来ないと、ぼくらはすぐに売り切れちゃうよ。おばちゃんたち、ぼくらを立派に育ててくれて、ありがとう。おっと、またお客さんだ。いらっしゃーい！

（いわた・えいさく／総合文化学科教員）

（松江市美保関町笹子）

のんびり雲　第９号　2015

巻頭エッセイ◉私を育てた街と人
山根万理奈　1

特集◉木

ワクワク木造校舎
大山ものづくり学校（鳥取県大山町）　2

組子細工　球体に挑む
ウッドアート門脇（安来市伯太町）　7

やさしく温かな炭の魅力
丸ヨ商店（出雲市）　12

自然を考える！林業の魅力　（株）グリーン・シャイン　須山里美さん（鳥取県日南町）　17

未来へ受け継がれる
雲州そろばんの伝統（奥出雲町）　22

木でできた、ぬくもりのある作品
木彫刻　中尾芳雄さん（出雲市）　26

匠の技を後世に
宮大工　森下孝明さん（大田市）　30

最強の楽器を作る
大柄太鼓店（鳥取県日南町）　34

◇　◇　◇

街のおもしろ文化観察学入門⑩大田編　39

出張！多伎の海　大試食会　44

笑顔あふれる、みんなの「縁側」
笑んがわ市（雲南市三刀屋町）　49

ダムの見える牧場（奥出雲町・雲南市）　54

アイルランドだより
文化資源としての「小泉八雲庭園」の誕生　58

（まんが）笑顔の意味　63

ダスティン・キッド先生と行く
古志原お地蔵さんめぐり（松江市）　67

USJC & CWU　交流25周年を記念して　72

そうだ！　丁左まつりに行こう（境港市）　74

タオルで花輪？
トップラン（安来市伯太町）　78

大試食会　番外編　白ネギ料理の研究　82

未来へ続く伝統の世界
福屋神楽衣裳店（浜田市）　86

編集後記　90

Ｒ４３１物語⑥野菜たち（裏表紙裏）

（表紙：ダムの見える牧場）